

# 指導方法等の改善計画について

〔国語科〕

坂町立横浜小学校

## 全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
78%	69%	66.8%

## 全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- 平均正答率が78%で、全ての領域等において全国・広島県平均より高い。とりわけ、「書くこと」の領域においては、平均正答率が85.6%（広島県71.7% 全国69.5%）であり、全国と比べ16.1%高い。  
<正答率上位の設問>
  - ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。90.2%（広島県67.2% 全国65.5%）
  - ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫することができる。80.4%（広島県64.5% 全国61.3%）
- 正答数分布グラフを見ると、問題数14問に対し、正答数10問以上（正答率70%以上）の児童の割合が80.3%と多くを占め、その中でも正答数12問の児童の割合が31.4%と最も多い。

## 重点課題

<正答率下位の設問>

- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる。41.2%（広島県41.3% 全国40.8%）
- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。58.8%（広島県56.3% 全国53.3%）
- ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。78.4%（広島県75.6% 全国73.7%）

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・他教科においても、文章やグラフ、図表などから必要な情報を取捨選択し、まとめる学習を繰り返し行い、実生活と結び付けながら定着を図る。
- ・学校図書館の新聞やぶんタッチ（中国新聞デジタル）の活用を通して、身の回りの出来事に関心をもたせると共に、朝のスピーチタイム等で自分の考えを表現する機会を多く設ける。
- ・筆者の主張に対する自分の考えを友だちと交流する場を意図的に設けることで、他者の考えに触れる中で自らの考えを深めていけるようにする。
- ・学級活動などの話し合いにおいて、発達段階に応じ、自分の意見を言う場、相手の考えに反応する場、根拠をもって自分の考えを伝える場などを積極的に設けることで、対話の経験を積み重ねさせる。

# 指導方法等の改善計画について

〔算数科・数学科〕

坂町立横浜小学校

## 全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
71%	59%	58%

## 全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- 平均正答率が 71% で、全ての領域等において平均正答率は全国・広島県平均より高い。とりわけ、「図形」の領域においては、平均正答率が 70.1% (広島県 57.1% 全国 56.2%) であり、全国と比べ 13.9% 高い。  
<正答率上位の設問>
  - ・数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えることができる。 58.8% (広島県 36.1% 全国 35.0%)
  - ・「10% 増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる。 66.7% (広島県 39.7% 全国 40.9%)
- 正答数分布グラフを見ると、問題数 16 問に対し、正答数 11 問以上 (正答数 70% 以上) の児童の割合が 64.7% であり、その中でも正答数 14・15 問の児童の割合が 31.4% と最も多い。

## 重点課題

### <正答率下位の設問>

- ・目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。 47.1% (広島県 33.3% 全国 31.0%)
- ・示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる。 76.5% (広島県 74.2% 全国 74.5%)
- ・分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述できる。 39.2% (広島県 23.9% 全国 23.0%)
- ・はかりの目盛りを読むことができる。 62.7% (広島県 60.6% 全国 60.9%)

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・答えを導き出すことはできるが、与えられた条件下で理由を説明できていない。問題文に線を引いたり、キーワードに印を付けたりしながら解き進めることを通し、問われていることを整理して理解する力を育成する。
- ・理科や社会科などの他教科と関連させることで、学習の中で繰り返しグラフや表を活用し、定着を図っていく。
- ・文章から問題場面をイメージすることに難しさが見られるため、絵や図、具体物を用いることで場面把握を促していく。
- ・一問一答の問題だけではなく、様々なスタイル問題に日頃から触れさせていく。
- ・はかりの読み方については、算数科での指導に留まらず、理科の学習とも関連させることで繰り返し体験を通して定着させていく。

# 指導方法等の改善計画について 〔理科〕

坂町立横浜小学校

## 全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
69%	59%	57.1%

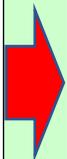
## 全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- 平均正答率が 69%で、全ての領域等において平均正答率は全国・広島県平均より高い。とりわけ、「生命」の領域においては、平均正答率が 73.0%（広島県 55.1% 全国 52.0%）であり、全国と比べ 21%高い。  
 <正答率上位の設問>
  - ・レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現することができる。 60.8%（広島県 36.9% 全国 29.9%）
  - ・ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている。 92.2%（広島県 74.6% 全国 70.7%）
- 正答数分布グラフを見ると、問題数 17 問に対し、正答数 12 問以上（正答数 70%以上）の児童の割合が 52.9%であり、その中でも正答数 13 問の児童の割合が 19.6%と最も多い。



## 重点課題

- <正答率下位の設問>
  - ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができる。 76.5%（広島県 79.6% 全国 77.8%）
  - ・身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている。 21.6%（広島県 10.2% 全国 10.6%）
  - ・電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識が身に付いている。 68.6%（広島県 77.7% 全国 78.0%）



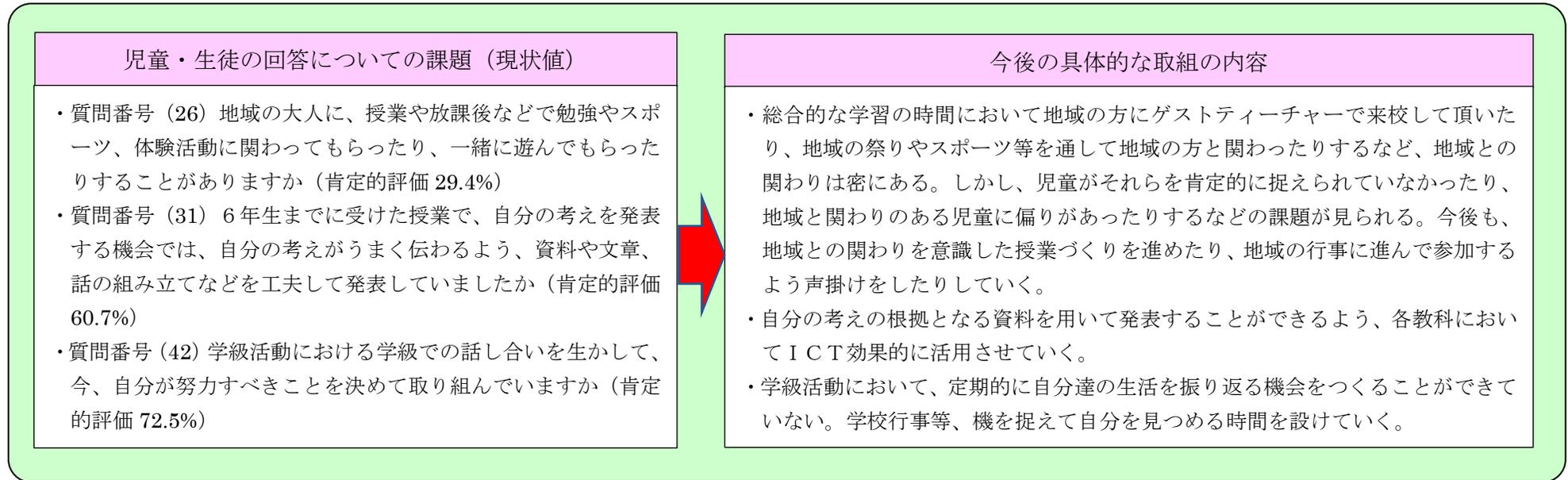
## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・大きい粒の方が水がしみ込みやすいということを実感として捉えられていない。教科書に出ている実験に留まらず、異なる条件での実験を行ったり、身近な素材を使ったりすることで、予想・実験・考察する学習活動を充実させる。
- ・金属である物質について、多くの児童が「電気を通さない」と誤答している。日常生活の中で、金属を使った様々な物について、その性質を実感する機会を増やすとともに、主体的な学びの場として、身の回りの物を使ったおもちゃ作りなどの機会を設けていく。
- ・「コイルの巻き数を増やすか減らすか」という現象を表す言葉の表現理解が不十分である。コイルの巻き数のついてだけでなく、草丈（高低）、電流（大小）などの表現の意味をその都度確認し、正確に表現できるようにする。

# 指導方法等の改善計画について〔質問紙調査〕

坂町立横浜小学校

## (1) 生活・学習



## (2) 教科

